

日本輓系種にみられた馬増殖性腸症の1例

井澤将規^{1),2)} 山之内 健²⁾ 早川さつき²⁾ 小山 毅²⁾
田淵博之²⁾ 高久英徳^{2)†}

- 1) 北海道農政部畜産振興課 (〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目)
- 2) 北海道空知家畜保健衛生所 (〒079-0181 岩見沢市岡山町12-37)

(2024年4月25日受付・2024年7月31日受理・2024年10月31日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/10/77_e157/_article-char/ja

要 約

北海道空知管内で飼養されていた5カ月齢の日本輓系種が、発熱、呼吸促迫及び下痢を呈し斃死した。剖検では、回腸壁の肥厚や斑状の褪色がみられ、回腸粘膜は皺壁の形成が認められた。細菌学的検査では、回腸粘膜及び結腸内容から、*Lawsonia intracellularis* 遺伝子が検出された。病理組織学的検査では、回腸における陰窩上皮細胞の腺腫様過形成がみられ、Warthin-Starry染色で陰窩上皮細胞の細胞質内に多数の湾曲した小桿菌が、家兔抗*Lawsonia intracellularis*抗体を用いた免疫組織化学染色では、小桿菌に一致して陽性反応がみられた。細菌学的検査及び病理組織学的検査の結果から、本症例を馬の増殖性腸症と診断した。これまで、日本輓系種における本病の発生報告はなかったが、重種馬においても、本病の診断及び対策が必要である。

——キーワード：馬増殖性腸症，日本輓系種，*Lawsonia intracellularis*。